

## 概要

2019年1月31日

一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)

本報告書は一般財団法人新技術振興渡辺記念会からの受託により行った「科学技術・イノベーションによる地球持続可能開発(Sustainable Development)に関する調査研究」の成果である。SDGsは、2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(Sustainable Development Goals)」を指す。これは、2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されている。

このSDGsに科学技術、イノベーションはどのように貢献できるのか、担い手である産業界はどのように取り組むべきかに関し、識者の考え方を学び、事例を収集、分析し、今後の方向を探ったものである。

### (1) 実施体制

調査研究期間は2017年12月～2019年1月、実施のために一般社団法人科学技術と経済の会(JATES)の中に、SDGs調査研究委員会(委員長:田辺 孝二氏、東京工業大学特任教授)を設置して活動を行った。委員会経緯は後記の通りである。

なお、取りまとめ報告書の執筆は、JATES専務理事 村野 和雄およびスタッフが、学識者、産業界メンバーの指導、助言を得て行った。

### (2) 要約

まず、SDGsの内容とSDGsにおける科学技術、イノベーションの役割全般につき調査研究を行った。わが国でSDGs推進を政府で担当されている外務省国際協力局地球規模課題総括課、国連の種々の場に参加されている国立研究法人科学技術振興機構(JST)、民間シンクタンクとして産業界の動向に詳しい日本総合研究所の方々をお招きし、講演と討議を行い報告書に取り入れている。さらに国際動向を知るべく、SDGsのフォローを国連で行っているマルチステークホルダーフォーラムの第3回の資料を付した。(第1章)

次に最近の新興国の経済やインフラの状況を資料によって分析した。SDGsはそれ以前のミレニアム開発目標(MDGs)を受け継いでおり、開発途上国の経済社会発展が大きなテーマとなっている。その最近の経済情勢や課題等を知る必要があると考えられたためである。

21世紀に入り、大きな国際金融危機はあったが、新興国、開発途上国は比較的順調な開発過程を経てきた。それが、2014～15年に商品価格の大幅下落があり多くの途上国で経済の停滞、債務の増加が起こった<sup>(注)</sup>。現在は、その回復期にあるが国によって状況はまちまちである。特に1次産品等商品輸出に依存している国の打撃が大きく、債務脆弱性がある。開発のプロセスで、複合型の経済を目指すことが必要となっている。(第2章)

(注)2014年6月から2015年2月にかけて需要と供給双方の複数要因からグローバル商品価格は38%下落した。世界銀行の9種類の価格指数がすべて下落し、これは非常に異例とされている。

本調査研究委員会では国内各社の事例を収集すべく、10社ほどからプレゼンテーションを受けた。それらは建築土木、電気・電子、農業・食料、教育など多業種にまたがり、全社的な活動や経営に関わる例、個別事業の事例等さまざまであった。さらに、当会のアーカイブの中からSDGsに関係深い資料、また当会が主催している「技術経営・イノベーション賞」のこれまでの受賞案件の中からSDGsに貢献すると考えられる事例を収集し、これらを含めてわが国産業界の取り組み事例となっている。(第3章)。

SDGsでは文字通りサステナビリティが重要とされているが、事業がサステナブルであるためには現地で循環していくことが必要である。すなわち、その国にビジネスとして定着する、これによってその国の人々に必要な、価値ある商品やサービスがサステナブルに供給され消費されていく。そこで、そのような現地に根付かせるための活動をやはり本調査研究委員会、当会の過去文献から収集し掲載した。途上国での現地で求められるコスト、生産や流通のしくみ、サービスの体制が循環していくために各社さまざまな工夫をされており、それらを事例として収集した。(第4章)

まとめとして、SDGsと産業界の活動との関係について分析を行った。SDGsを実践する担い手は最終的に産業界となる。産業界もその事業は継続性があり成長していくことを望んでいるし努力をしている。そのような事業に対して、SDGsはある種のニーズ、求められている価値をあらわしていると考えられる。

産業界が追求するのは顧客が求める価値であるから、そこにSDGsとの接点があり、個別企業等の事業計画において参照され考慮がなされるべきである、との考え方を基本としている。併せて、関連性がある価値あるいはニーズについての活動や理論いくつかを収集し、紹介している。(第5章)

### (3) SDGs 調査研究委員会の開催記録

#### 第1回 2018年1月25日

挨拶/委員会趣旨説明 (一社)科学技術と経済の会常務理事 太田健一郎

講演:「最近のSDGsをめぐる動きについて」

講師:外務省国際協力局地球規模課題総括課 吉川 隆史氏

#### 第2回 2月27日

講演:「科学技術振興機構のSDGsへの取り組みと産業界への期待」

講師:(国研)科学技術振興機構(JST)上席フェロー(国際担当) 大竹 暁氏

#### 第3回 5月9日

講演1:「LixilのSDGsへの取り組み」

(株)Lixil SSI(ソーシャルサニテーションイニシアティブ)部主査 坂田 優氏

講演2:「清水建設の海洋未来都市 Green Floatの取り組み」

清水建設(株)フロンティア開発室 上席エンジニア 竹内 真幸氏

#### 第4回 6月4日

- 講演:「富士通のSDGsへの取り組み(仮)」  
 富士通株式会社 環境・CSR本部 本部長 金光 英之氏
- 第5回 7月9日  
 講演:「SDGsビジネスの可能性とルール形成」  
 経済産業省産業技術環境局審議官 佐藤 文一氏  
 同 基準認証政策課 高木 美香氏
- 第6回 7月27日  
 講演1:「鹿島建設のSDGsへの取り組み」  
 鹿島建設(株)技術研究所・所長 福田 孝晴氏  
 講演2:「NECのSDGsへの取り組み」  
 日本電気(株)／環境・品質推進本部／環境推進部 稲垣 孝一氏
- 第7回 9月28日  
 講演:「OKIのSDGsにおける風土改革の取り組み」  
 沖電気工業(株) 経営基盤本部 OKIイノベーション塾 塾長 千村 保文氏
- 第8回 11月6日 【SDGsシンポジウム】  
 講演1:「日本企業がSDGs達成に真に貢献するためには」  
 日本総合研究所 理事 足達 英一郎氏  
 講演2:「持続可能な開発目標」(SDGs)について  
 外務省 国際協力局地球規模課題総括課課長補佐 春田 博己氏  
 講演3:「KDDIの5G/IoTの取り組み～新たな「ワクワク」の創造に向けて」  
 KDDI株式会社技術統括本部 新技術企画担当 理事 宇佐見 正士氏
- 第9回 12月19日  
 講演:「最先端e-Learningの新興国への展開～子どもたちの基礎学力底上げのために」  
 株式会社すららネット 代表取締役社長 湯野川 孝彦氏